

## 第1節 雨水浸透率

環境目標1: 「住みたい、楽しく美しい、歩きたくなるまち・春日井」に関する数値目標

市域全体での雨水浸透率 0.36以上

雨水浸透率は、水循環を表す指標の一つで、水害の防止、ヒートアイランド現象の緩和、地下水の保全に関わるものです。森林、農地の保全及び宅地・道路の浸透能力の向上を図ることによって、雨水浸透率の確保をめざします。

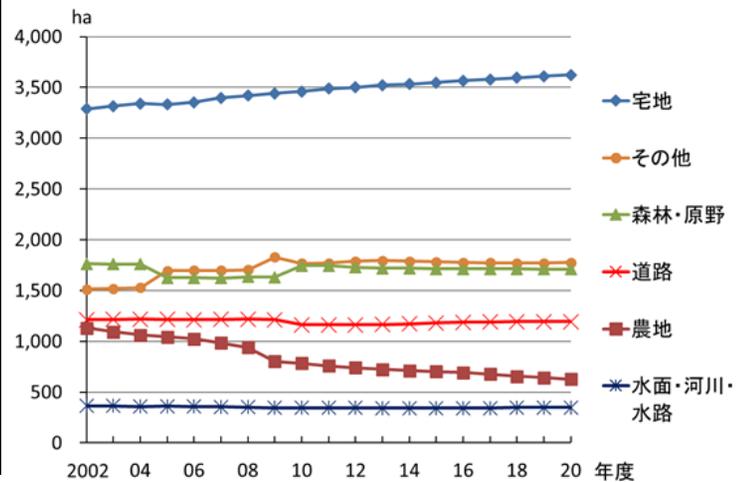
### ○ 2020年度 土地利用別雨水浸透率

土地利用種別		基準浸透率	面積(ha)	基準浸透率 × 面積
宅地	建ぺい地	0.0	1,050.7	0.0
	その他	0.2	2,572.3	514.5
農地	田	0.8	327.0	261.6
	畑	0.8	299.0	239.2
森林・原野		0.8	1,712.0	1,369.6
道路		0.1	1,194.0	119.4
水面・河川・水路		0.0	348.0	0.0
その他		0.5	1,775.0	887.5
計			9,278	3,391.8

①

②

土地利用別面積



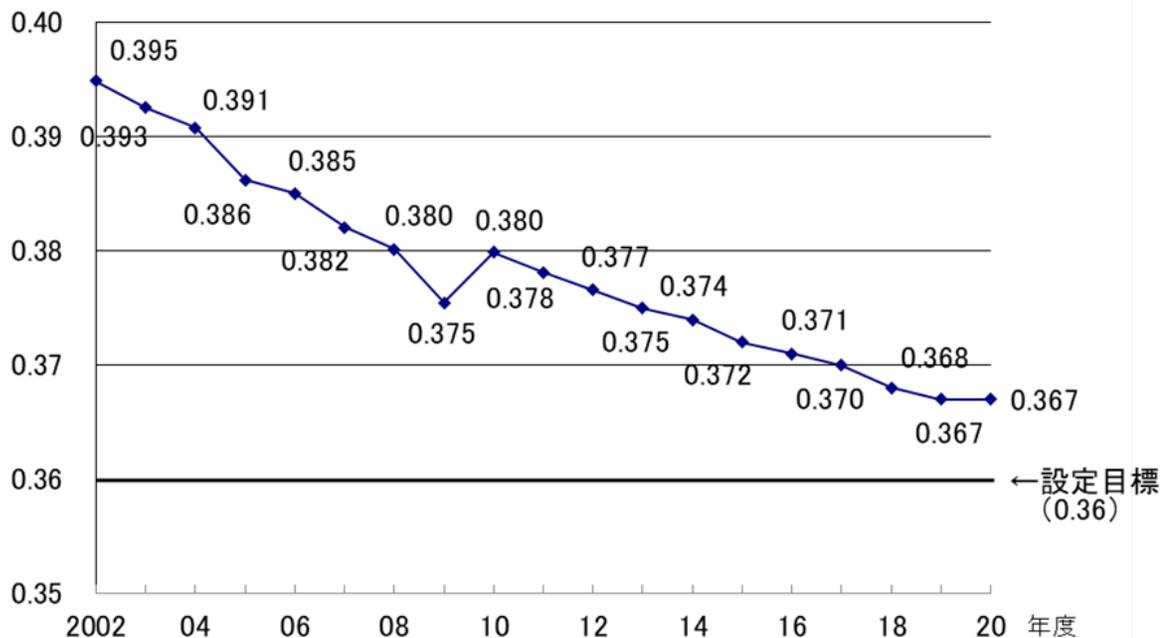
### ○ 2020年度 透水性舗装における雨水浸透率

実施区分		基準浸透率	面積(ha)			基準浸透率 × 面積
			2002~2019年度	2020年度	累計	
道路対策	歩道	0.7	10.06	0.29	10.35	7.24
駐車場対策	公共	0.7	1.81	0.00	1.81	1.27
公園対策	公共	0.7	1.47	0.16	1.63	1.14
計			13.79		13.79	9.65

③

$$\text{雨水浸透率} = \frac{\text{②} + \text{③}}{\text{①}} = \frac{3,391.8 + 9.65}{9,278} = 0.367$$

雨水浸透率



※2010年度は集計方法の見直しにより、道路、その他に分類されていた土地(約100ha)が森林・原野(国有林)として集計されたため上昇。

○ 結果

雨水浸透率は、土地利用別雨水浸透率と透水性舗装における浸透率の和で算出され、2020年度は、0.37(0.367)でした。

雨水浸透率を経年変化で見ると、2002年度(平成14年度)以降、減少傾向で推移しています。

## 第2節 みどり率

環境目標2: 「豊かな自然と人が共存し、歴史・文化を育むまち・春日井」に関する数値目標

将来市街地でみどり率10%以上、市域全体でみどり率30%以上

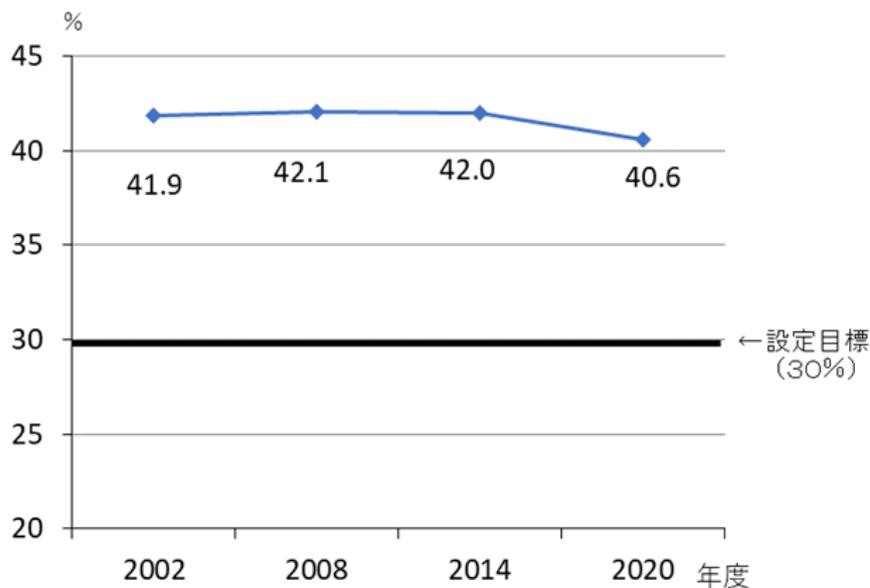
みどり率は、森林、農地、草地などの緑の量を表す指標の一つで、生物の生息環境など自然に関わるものです。緑は、都市化によって減少しますが、森林、農地の保全や市街地における緑化の推進により、みどり率の確保をめざします。

○ みどり率（2020年8月の航空写真を基に算出したもの）

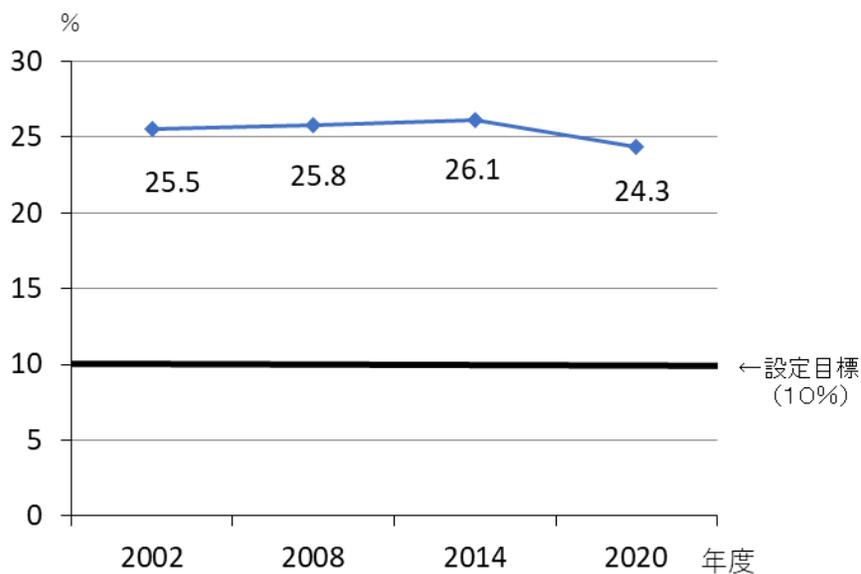
区分	市域全体	将来市街地 <sup>※</sup>
樹林地	2,218.6ha	599.2ha
竹林	60.7ha	24.5ha
街路樹	37.4ha	34.1ha
芝地	267.0ha	158.1ha
草地	443.5ha	309.1ha
水田	349.5ha	156.7ha
畑	288.8ha	172.7ha
果樹園	97.2ha	67.2ha
その他農地	1.4ha	0.9ha
緑地計	3,764.1ha	1,522.5ha
全面積	9,278ha	6,267ha
みどり率	40.6%	24.3%

※将来市街地とは、現在の市街化区域に加え、総合計画で位置づけられた市街地開発事業等の予定区域、市街化調整区域の人口集中地区、及びこれらに隣接する市街化調整区域の住宅団地等を示します。

みどり率(市域全体)



みどり率(将来市街地)



○ 結果

みどり率は、航空写真から緑と認められるものを算出します。2020年度に算出した結果(2020年8月に撮影した航空写真を基に算出したもの)は、市域全体で40.6%、将来市街地で24.3%であり、ともに目標値を達成しています。

### 第3節 ごみ廃棄量

環境目標3: 「美しい地球を守る、地域のしくみがいきづくまち・春日井」に関する数値目標

1人1日当たりのごみ排出量	130g削減	} 2010年度(平成22年度)比
家庭系ごみ排出量	15%削減	
事業系ごみ排出量	20%削減	

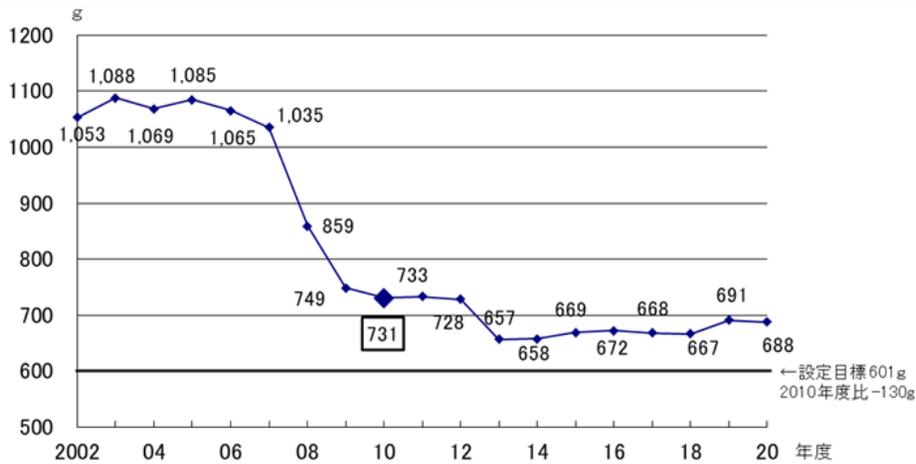
市が収集(処理)したごみから資源として回収された量を除いたものをごみ排出量とし、ごみの減量やリサイクルを進めることにより、ごみ排出量の削減をめざします。

#### ○ 2020年度の状況

項目	合計
① ごみ総収集量	92,488 t
② 処理過程資源回収量*	4,515 t
③ 資源収集量	10,076 t
④ ごみ量(①-②-③)	77,897 t
⑤ 総人口(2021年4月1日現在)	310,317 人
⑥ 1人1日当たりのごみ排出量	688 g/人・日 (2010年度比 -43g)

\*クリーンセンターでの処理過程において発生した資源量

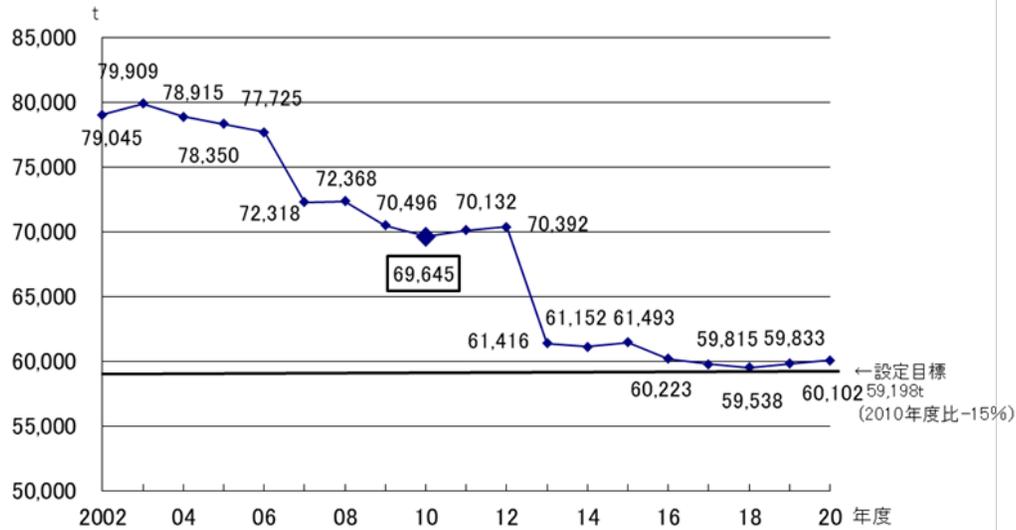
#### 1人1日当たりのごみ排出量



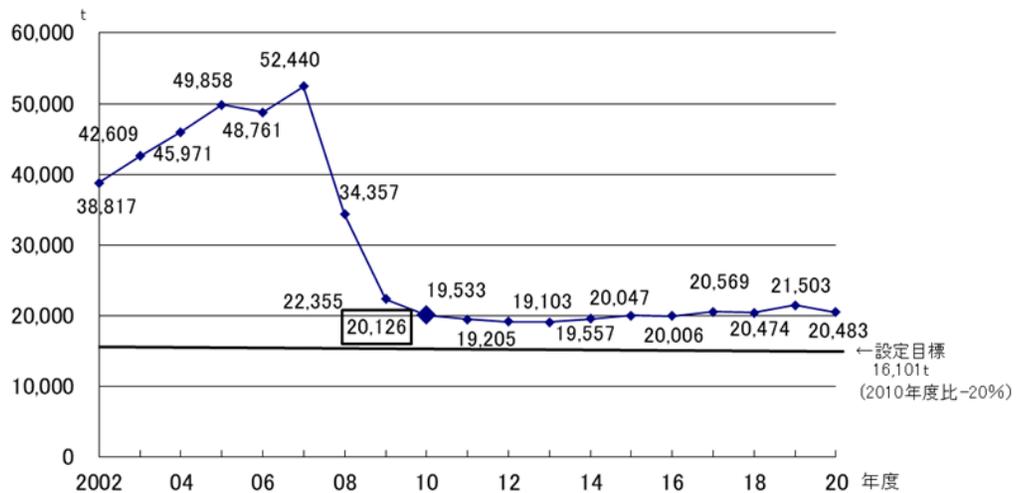
#### ○ 2020年度 家庭系ごみ排出量及び事業系ごみ排出量

項目	2010年度 (基準年度)	2020年度	増減率 (基準年度比)
① 家庭系ごみ排出量	69,645 t	60,102 t	-13.7%
② 事業系ごみ排出量	20,126 t	20,483 t	1.8%

① 家庭系ごみ排出量



② 事業系ごみ排出量



○ 結果

2020年度の1人1日当たりのごみ排出量は688gであり、基準年度(731g)と比べ43gの削減となっています。

2020年度の家庭系ごみ排出量は、60,102tであり、基準年度(69,645t)と比べ、13.7%の削減となっています。

また、2020年度の事業系ごみ排出量は、20,483tであり、基準年度(20,126t)と比べ、1.8%の増加となっています。

2019年(平成31年)3月に改定したごみ処理基本計画では、1人1日当たりごみ排出量を2017年度(平成29年度)比で2028年度(令和10年度)までに47g削減するなど5つの目標を掲げています。

詳細については、「ごみ処理基本計画」をご覧ください。

<市ホームページ>

<https://www.city.kasugai.lg.jp/shimin/gomi/gomi/kihonkeikaku/index.html>

## 第4節 温室効果ガス排出量

環境目標3: 「美しい地球を守る、地域のしくみがいきづまち・春日井」に関する数値目標

市内全域の温室効果ガス排出量を17%削減(2008年度(平成20年度)比)

温室効果ガス排出量は、地球温暖化対策の効果を表す指標の一つです。各部門の排出量の総和とし、市民、事業者の協力により、削減をめざします。

### ○ 2019年度の温室効果ガス排出量

部門	2008年度 (基準年度)	2019年度		増減率 (基準年度比)	
	排出量(t-CO <sub>2</sub> )	排出量(t-CO <sub>2</sub> )	構成比		
二酸化炭素排出量	産業部門	760,955.3	726,223.5	40.6%	-4.6%
	民生家庭部門	304,993.1	266,732.1	14.9%	-12.5%
	民生業務部門	393,619.7	319,057.0	17.8%	-18.9%
	運輸部門	405,367.1	447,213.3	25.0%	10.3%
	廃棄物部門	31,310.5	21,565.3	1.2%	-31.1%
	小計 <sup>※1</sup>	1,896,245.6	1,780,791.2	99.5%	-6.1%
メタン排出量 <sup>※2</sup>	1,712.9	1,587.8	0.1%	-7.3%	
一酸化二窒素排出量 <sup>※2</sup>	10,116.3	7,444.2	0.4%	-26.4%	
温室効果ガス排出量合計	1,908,074.8	1,789,823.2	100.0%	-6.2%	

※1 四捨五入の関係で計が一致しない場合があります。

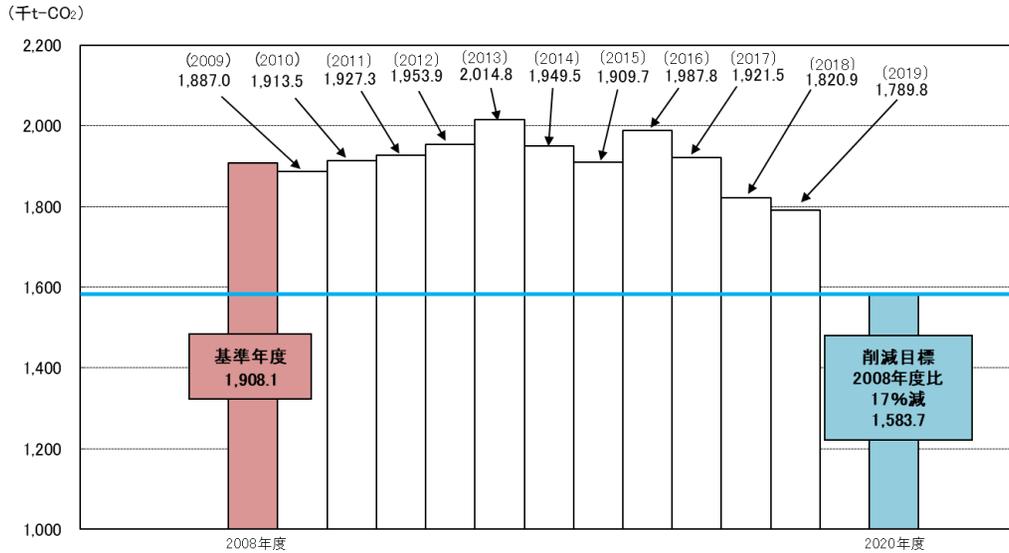
※2 メタン、一酸化二窒素の排出量は二酸化炭素排出量に換算。

### ○ 結果

2019年度(令和元年度)の温室効果ガス排出量は、1,789.8千t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度(1,908.1千t-CO<sub>2</sub>)に比べ6.2%減少しています。

部門別二酸化炭素排出量は基準年度と比べ、運輸部門は増加し、産業部門、民生家庭部門、民生業務部門、廃棄物部門は減少しています。

○ 温室効果ガス排出量の推移



地球温暖化対策実行計画(2019-2030)では、温室効果ガス排出量について、基準年度を2013年度(平成25年度)、目標年度を2030年度(令和12年度)として、26%削減する目標を掲げています。  
 詳細については31ページ(第2部 地球温暖化対策実行計画の実施状況)をご覧ください。

○ 部門別二酸化炭素排出量の推移

部門名	2008年度 (基準年度)	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	増減率 (基準年度比)
産業部門	761.0	716.7	721.9	704.9	730.9	750.1	754.7	727.3	799.7	770.9	752.8	726.2	-4.6%
民生家庭部門	305.0	311.2	329.8	343.4	337.3	336.9	316.2	299.8	310.5	292.0	269.6	266.7	-12.5%
民生業務部門	393.6	418.9	423.7	432.8	437.5	475.8	420.4	422.7	410.6	390.3	325.7	319.1	-18.9%
運輸部門	405.4	404.5	404.3	411.4	415.9	422.1	428.0	431.5	438.1	440.0	443.1	447.2	10.3%
廃棄物部門	31.3	26.1	24.5	25.3	23.1	20.8	21.0	19.1	19.5	19.3	20.8	21.6	-31.1%
二酸化炭素排出量※	1,896.2	1,877.4	1,904.0	1,917.8	1,944.8	2,005.6	1,940.3	1,900.3	1,978.4	1,912.5	1,812.0	1,780.8	-6.1%

※ 四捨五入の関係で計が一致しない場合があります。

## 第5節 環境基準達成率

環境目標3: 「美しい地球を守る、地域のしくみがいきづまち・春日井」に関する数値目標

大気、水質、騒音に関する環境基準について、項目ごとに 100%達成

環境基準達成率は、環境基本法において「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められている環境基準の適合状況を表す指標です。国、県、市民、事業者との連携による対策の推進により、環境基準の達成をめざします。

○ 大気・水質測定地点



○ 2020年度 環境基準達成状況

指標		区分	測定値	単位	環境基準等	適合地点数 測定地点数	達成率(%)	適合 可否
大 気	① 二酸化硫黄(SO <sub>2</sub> ) 日平均の2%除外値		0.007、0.000	ppm	日平均の2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、日平均0.04ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。	2/2	100	○
		超過日数		0				
	② 二酸化窒素(NO <sub>2</sub> ) 日平均値の年間98%値		0.013~0.032	ppm	日平均の年間98%値が0.06ppm以下であること	4/4	100	○
		③ 浮遊粒子状物質(SPM) 日平均の2%除外値		0.032~0.033	mg/m <sup>3</sup>	日平均の2%除外値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であること。ただし、日平均0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日が2日以上連続しないこと。	4/4	100
	超過日数			0	日			
	④ 一酸化炭素(CO) 日平均の2%除外値		0.36	ppm	日平均の2%除外値が10ppm以下であること。ただし、日平均10ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。	1/1	100	○
		超過日数		0				
	⑤ 揮発性有機化合物 濃度平均値	ベンゼン	0.0005~0.0011	mg/m <sup>3</sup>	1年平均値が0.003mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	4/4	100	○
		トリクロロエチレン	<0.0003	mg/m <sup>3</sup>	1年平均値が0.13mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	4/4		
		テトラクロロエチレン	<0.0003	mg/m <sup>3</sup>	1年平均値が0.2mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	4/4		
ジクロロメタン		0.0010~0.0021	mg/m <sup>3</sup>	1年平均値が0.15mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	4/4			
⑥ 大気中のダイオキシン類 平均値		0.014、0.018	P8- TEQ/m <sup>3</sup>	1年平均値が0.6pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下であること。	2/2	100	○	
水 質	⑦ 健康項目 (庄内川・市内中小河川)		全項目適合	—	27項目設定 <sup>※1</sup>	17/17	100	○
	⑧ 生活環境項目 生物化学的酸素要求量(BOD)の 75%値(庄内川)		0.9~2.8	mg/L	2mg/L以下又は5mg/L以下 <sup>※2</sup> (河川区域による)	5/5	100	○
	⑨ 同(BOD)の75%値 (市内中小河川)		0.8~7.1	mg/L	(市独自目標) 8mg/L以下	12/12	100	○
	⑩ 健康項目(地下水)	メッシュ別調査	全項目適合	—	28項目設定 <sup>※3</sup>	1/1	100	○
騒 音	⑪ 環境騒音(一般)	昼間	40~55	デシベル	55~60デシベル以下(地域による)	9/9	100	○
		夜間	34~48	デシベル	45~50デシベル以下( " )	9/9	100	
	⑫ 環境騒音(自動車騒音)	昼間	65~72	デシベル	70デシベル以下	9,460/9,531	99.3 <sup>※4</sup>	×
			75.3~100	%				
		夜間	60~69	デシベル	65デシベル以下	9,392/9,531	98.5 <sup>※4</sup>	
			50.0~100	%				

※1: カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、テウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサンの27項目。  
 ※2: 庄内川の水域類型が見直しされ、庄内川各調査地点に適用される環境基準が変更された。(2020年3月31日)  
 ※3: ※1のうち、シス-1,2-ジクロロエチレンに代わり、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレンを加えた28項目。  
 ※4: 騒音⑫環境騒音(自動車騒音)の達成率は、対象とする全戸数の達成率。

○ 結果

2020年度は、大気、水質、騒音に関する全12項目の指標中、二酸化硫黄を始めとする11項目が達成しています。

## 第6節 環境まちづくり参加人数

環境目標4: 「美しい地球を守る、地域のしくみがいきづまち・春日井」に関する数値目標

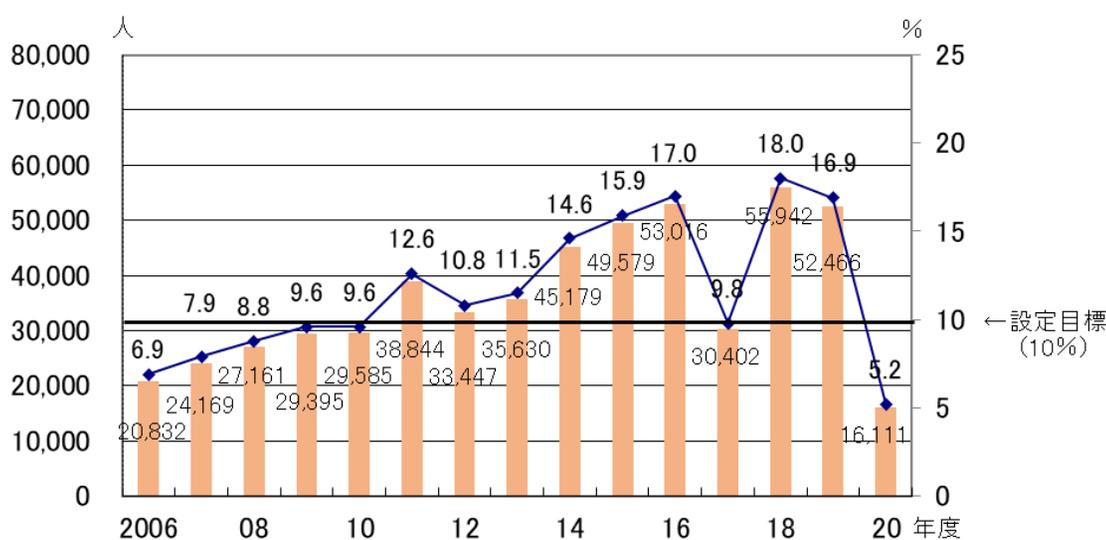
環境に関するイベント等への参加人数が、総人口の 10%以上

市民、事業者の参加による環境まちづくりの進み具合を表す指標の一つです。環境まちづくりへの参加を推進し、イベント等への参加者が増えることをめざします。

### ○ 2020 年度 環境まちづくり参加人数

分 類		環境まちづくり参加人数 (総人口比)
1	環境に関するイベントなど	6,760 人
2	環境に関する講座など	6,399 人
3	環境に関連した市民団体など	734 人
4	その他環境に関する市民、事業者の活動	2,218 人
合 計		16,111 人 (5.2%)

### 環境まちづくり参加人数



※2017 年度は悪天候のため、春日井まつりにおけるエコワールド(2019 年度は 18,097 人が参加)を中止。

※2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、環境に関するイベント等が中止、または規模を縮小。

### ○ 結 果

2020 年度の環境まちづくり参加人数は 16,111 人で、総人口 310,317 人(2021 年(令和3年)4月1日現在)に対し、5.2%となっており、目標値より4.8%低くなっています。